

こぼれ話

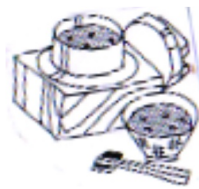
誰もがお風呂は大好きである。首まで湯に浸かり、身体を温めながら瞑想し、汗を流す。実はそんな体験を入院中にした方がいる。体調を崩し入院し、体力が回復し、病院内のお風呂に入る許可がでた。病院の最上階に風呂がある。そこから見る眺めは最高で、山脈や遠く太平洋の一部が見える。彼はそのお風呂の虜になった。やがて退院し

た。しかし、あのお風呂が気になりいつしかまた通うようになった。そんなある日、お風呂に入っていると現役の入院患者が入ってきた。当然顔見知りである。お互いの現況を報告しあった。そのうちに現役の患者がフラフラとし始めた。彼はすぐにナースコールを押し、着替え場に連れ、横にされた。看護師が来た。彼の処置に感心し「ありがとうございます。何号室の方ですか？」と尋ねた。「いや、名乗るほどの者では」と横を向いた。

わが家の一品

「モロヘイヤと納豆和え」

「材料」モロヘイヤ、納豆、しらす、削り節、つゆ。



わが家の調

「つくり方」夏野菜のモロヘイヤはいまや人気の一品ですね。わが家でも小さな畑に植え、昨年から食べています。ねばねばした食感と栄養価満点なところが気に入っています。わが家の調子には少しくどすぎるかな、と思います。温かいご飯にかけてどうぞ。
(山口団地/Y・S)

依然として人材不足、なぜ定着しないか。賃金安くと福利厚生条件が悪い、が原因

沿岸フォーラム

亡国の漁業権開放論と資源・地域・国土の崩壊へと

鈴木宣弘東大教授が特別講演

9月1日(金)午後1時から「規制改革会議と漁業権を考える」をテーマに沿岸漁業フォーラムが開催され、全国各地から200名を超える漁業関係者と大学教授、議員が参加しました。

日本共産党の宮古市議団(3名/田中代表)も参加しました。会場は東



フォーラム参加者

鈴木宣弘東大教授の特別講演

規制緩和の違和感と真意。そこに浜があり、長年漁民は、漁協に集まり、そこで生計を立ててきた。和Ⅱ長年の相互扶助的ルールや組織を壊し、地域のよう年間計画を話し合い、公平性を保つように調整してきた。

1

突然、漁業権の免許が漁協から企業に変更されたから一部は企業が雇うが、後は出て行け、という理不尽なことは常識的には考えられない。しかし、大震災による漁民の窮状につけこんで、火事場泥棒的な特区が実現した。その真意は、●規制緩和の悲劇。資源が持たない・コモン

読者の文芸欄

短歌

金沢邦臣(田鎖)

●真ん丸く浩々と照る月を見き日内障の手術を終えて
●浮かぶ雲みな白いから降りしはせぬと今日の洗い物外に持ち出す
自注/実際に手術を受けた人は誰でもそう言いますが、私の場合は何年かぶりできれいな月を見ました。

依然深刻な人材不足～賃金と福利厚生条件

新規高卒者の就職率は100%

まだ続いている反映」との見方が支配的です。新規高校卒(今年3月)の就職率は盛岡市除きすべて100%

表題のように、今年3月高校卒業生の就職率は100%です。宮古管内の高校卒業生は672人で、そのうち就職希望者217人すべてが就職しました。内訳は県内就職128人、県外89人です。就職後会社を辞めた理由は何か

県労働局の調査によれば就職したが会社を辞めた理由は、仕事のストレスと人間関係の二つが上位2位を占め、宿泊業・サービス業では、労働時間や休日休暇の条件が悪いが第一位で42%、卸・小売りで36%です。若年正社員の給料比較は岩手15~20万円、大都市圏20~20万円です。



岩手日報紙の紙面に北上市に東芝の工場誘致が確定したとの報道されました。それとのかかわりで「依然厳しい人材不足」の記事も踊っています。平成29年6月/有効求人倍率は県内4番目の高さ

宮古職業安定所管内の有効求人倍率は1.56で県内の所別では4番目の高さです。ちなみに沿岸の平均倍率は1.44で、内陸は1.32です。そのうち正社員の倍率をみると宮古管内は1.07で県内で一番高い状況で、沿岸の平均0.9や内陸の0.79を上回っています。依然として「復興需要が

情報

日中晴れかと思うと、夜など一時的に結構な雨が降り、河川はささ濁りが続いている。ささ濁りは本来釣りにとっては適した条件である。こうした条件下ではやはりミミズなどがいい。ヤマメがエサを発見しやすいからである。

岩泉・大川の元製材所跡周辺に入った釣り吉はミミズで大物狙い。案の定水量が増えていた。木橋の上流部分のポイントにミミズを入れる。「橋の下で喰いつかれたらどうあわせ、引き上げるか」と考えているうちに竿が引き込まれた。竿を横にし、上流方向に引き上げた。それが20センチのヤマメである。大川集落中心部まで釣り上がる。ヤマメ9尾の釣果だ。「むしろこれからだべ」(懲りない面々だ...)

